

令和3年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和3年4月20日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立山中小学校

令和3年度 国語 (実施学年2～6年)

(1) 国語科の定着状況についての概要

		国語への 関心・意欲・態度		話す・聞く能 力		書く能力		読む能力		言語についての 知識・理解・技能		知識・ 技能	思考力・ 判断力・ 表現力	主体的に 学習に取 り組む姿
		H31	R2	H31	R2	H31	R2	H31	R2	H31	R2			
2年	目標値	68.1	74.4	74.3	71.0	61.4	74.4	69.3	67.5	90.0	90.0	85.6	68.6	65.0
	全国正答率	67.1	77.1	79.0	74.0	56.5	76.6	68.8	73.7	95.5	95.3	91.5	67.6	60.5
	校内正答率	69.0	85.1	80.4	81.9	59.2	86.1	72.1	81.2	97.5	94.4	95.8	79.5	75.5
3年	目標値	70.6	68.8	75.7	81.7	67.8	61.8	60.6	62.5	77.7	76.1	70.0	67.9	64.0
	全国正答率	71.6	65.9	77.9	79.4	66.8	58.8	60.5	63.0	80.9	82.4	71.3	65.8	58.0
	校内正答率	75.8	69.3	80.5	75.1	72.8	65.9	61.4	68.0	83.0	86.1	76.4	73.6	69.8
4年	目標値	62.5	64.4	62.0	66.7	59.5	59.6	67.9	67.5	69.8	62.1	68.6	63.7	61.0
	全国正答率	61.6	63.2	62.0	69.7	56.2	54.2	67.9	69.7	70.6	62.1	70.1	63.0	58.2
	校内正答率	68.1	63.8	64.6	71.6	67.7	52.8	77.1	69.0	75.2	54.5	75.5	70.9	72.5
5年	目標値	64.4	66.3	76.7	68.0	57.7	58.5	68.4	68.9	72.6	71.9	65.7	61.7	56.0
	全国正答率	68.7	63.8	83.8	66.2	60.9	56.9	69.4	70.0	78.5	71.8	69.5	61.6	55.0
	校内正答率	65.8	72.0	83.6	71.5	56.1	67.7	72.4	80.5	82.1	75.4	73.7	69.4	65.2
6年	目標値	66.3	71.9	80.0	83.3	57.7	66.2	63.1	67.5	71.0	65.9	59.3	60.0	57.0
	全国正答率	69.4	77.2	86.6	93.6	60.3	69.2	63.5	71.0	74.1	68.8	60.2	61.7	57.6
	校内正答率	70.4	78.1	89.2	90.5	61.9	71.3	70.3	76.9	77.1	72.1	73.2	71.5	69.6

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度の学力定着度調査では、どの学年も各観点においておおむね目標値に達していたが、学年によっては目標値に達していない観点がいくつかあった。今年度においては、全学年・全観点において目標値を達成し、さらに全学年どの観点も5ポイント以上、上回っている。全国正答率と比較しても5ポイント以上上回っている学年が多い。

(2) 具体的な課題とその要因

「知識・技能」の観点では、第3学年と第5学年「言葉の学習」の正答率が低く、既習の漢字を正しい書き順で書く力に課題があると考えられる。また、「思考力・判断力・表現力」の観点では、第2学年「説明文を読み取る」、第3学年「折り紙の折り方を説明する」、第4学年「話し合いの内容を聞き取る」「調べた文章をまとめる」、第6学年「説明文の内容を読み取る」の正答率が低く、相手の話の内容を受けて自分の思いや考えをまとめて発信したり表現したりする力に、課題があると考えられる。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

「知識・技能」の観点の既習漢字については、様々な読み方や活用法がある。音訓以外にも活用の違いで送り仮名の有無が変化したり、他の漢字と合わせて熟語となったりと、一つの漢字を広く応用できる力を身に付けていく必要がある。読書を通し多様な言い回しに慣れ親しんだり、一つの漢字から言葉を連想したり、熟語作りをしたりする活動を積極的に取り入れていく。また、「思考力・判断力・表現力」の力を伸ばしていくために、日常的に「考えて話す・聞く機会」を各学年・各学級に応じて増やしていく。具体的には、話し手の考えと自分の考えを比較し、共通点や相違点を見つけ、共感したことや納得したことなどを意識しながら自分の考えをまとめられるようにしていく。次年度も今年度同様に全学年の目標値達成を目指していく。

令和3年度 社会 (実施学年4～6年)

(1) 社会科の定着状況についての概要

		社会的事象への 関心・意欲・態度		社会的な思考・ 判断・表現		観察・資料活用の 技能		社会的事象についての 知識・理解		知識・技能	思考・判 断・表現	主体的に 学習に取り組む 態度
		H31	R2	H31	R2	H31	R2	H31	R2	R3	R3	R3
4年	目標値	61.1	53.6	60.0	57.2	65.2	68.3	70.3	67.6	73.8	58.3	58.9
	全国正答率	62.7	56.3	61.9	58.3	66.1	67.9	71.7	65.4	73.8	60.4	61.9
	校内正答率	69.3	56.7	69.2	58.4	72.0	70.4	72.7	64.3	78.1	68.9	69.0
5年	目標値	53.3	69.0	54.4	66.9	51.5	60.9	59.0	67.8	65.6	50.0	52.1
	全国正答率	58.5	64.2	57.4	61.3	50.8	56.8	60.0	65.5	59.4	42.8	46.1
	校内正答率	58.9	69.8	57.4	68.8	54.9	61.7	65.9	69.5	67.5	47.4	53.7
6年	目標値	59.4	56.5	63.1	58.6	66.0	69.1	63.9	63.9	68.0	50.0	52.0
	全国正答率	62.7	58.9	65.5	61.3	66.6	71.7	63.9	67.8	66.9	45.2	49.6
	校内正答率	56.5	59.5	59.9	62.1	67.6	72.4	63.5	66.3	70.1	56.5	59.8

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度までの学力定着度調査では、概ねどの観点も目標値に対し5ポイント以上下回る観点はなく、同程度、もしくは観点によっては5ポイント以上、上回るものもある。しかし、設問によっては「社会的事象における知識・技能」の力が全国正答率と校内正答率を比較すると、同程度かやや下回る。

今年度は、すべての観점에서全国平均を上回った。5ポイント以上、上回っている観点も多く学習内容は概ね身に付いているといえる。

(2) 具体的な課題とその要因

どの観点も全国平均を上回っており、概ね基本的な学習内容は身に付いているといえる。領域によっては目標値を下回っているものもあり課題である。第5学年「生活環境を支える活動」第6学年「農業や水産業」などの問題の正答率が目標値を下回った。どちらの領域でも見られるように、記述形式の問題や活用の問題の正答率がやや低い傾向がある。既習の知識や資料からの読み取りを生かして考える力の育成が課題である。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

各領域の内容を的確に身に付けるために、扱った小単元が終わったあとも、新しい小単元に関連する語句や事象を振り返らせる機会を設ける。また、その際は、その時に使用した資料を見せたり、地図帳を開かせたりしながら、振り返るようにする。また、事実の認識だけでなく自分の考えを記述する活動を積極的に取り入れていく。

次年度は、すべての学年の全観点が目標値より5ポイント以上、上回ることを目指していく。また、すべての領域で目標値を上回ることができるようにしていく。

令和3年度 算数 (実施学年2～6年)

(1) 算数科の定着状況についての概要

		算数への 関心・意欲・態 度		数学的な 思考・判断・表 現		数量や図形に ついての技能		数量や図形に ついての知識・ 理解		知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学 習に取り組 む態度
		H31	R2	H31	R2	H31	R2	H31	R2	R3	R3	R3
2 年	目標値	69.5	68.3	72.7	62.6	83.0	82.5	84.3	83.2	83.2	70.0	68.3
	全国正答率	70.7	64.9	74.8	58.3	87.2	84.9	86.8	82.9	86.6	71.7	69.6
	校内正答率	72.6	73.9	77.3	66.2	87.9	88.4	90.9	90.0	92.6	81.6	81.6
3 年	目標値	60.0	62.5	62.6	65.2	77.9	77.3	70.5	69.1	76.5	60.0	66.1
	全国正答率	59.1	62.8	62.4	63.3	80.2	78.6	72.8	67.8	79.2	59.6	69.0
	校内正答率	63.5	69.5	61.6	69.7	81.8	82.9	74.2	76.5	84.2	66.7	75.0
4 年	目標値	66.4	73.1	57.4	60.6	76.2	74.9	73.4	76.5	72.2	61.4	67.1
	全国正答率	67.4	74.5	58.6	57.7	78.4	74.7	75.6	77.5	73.4	61.8	69.3
	校内正答率	73.7	79.8	69.3	65.1	84.0	76.0	81.3	81.3	79.3	71.2	78.7
5 年	目標値	56.7	57.9	56.6	61.0	69.0	67.0	66.1	69.1	68.4	53.6	51.4
	全国正答率	56.0	49.5	56.7	58.5	69.9	65.8	67.4	69.1	68.8	52.8	52.0
	校内正答率	53.9	59.1	55.0	65.9	71.5	71.3	67.0	73.4	74.7	59.7	56.0
6 年	目標値	38.0	41.0	51.7	54.6	67.6	68.0	65.0	70.2	71.7	58.2	52.5
	全国正答率	35.4	36.8	50.3	51.9	68.4	67.3	65.9	70.7	74.8	57.3	52.3
	校内正答率	44.7	48.9	55.8	58.2	71.0	72.3	67.0	75.8	83.8	71.2	69.1

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度までの学力定着度調査では、概ねどの観点も目標値に対し5ポイント以上下回る観点はなく、同程度、もしくは観点によっては5ポイント以上、上回るものもあった。

今年度は、昨年度と同様、目標値を下回っていたものはなかった。5年生「主体的に学習に取り組む態度」は目標値、全国正答率を同程度か上回り、それ以外のすべての観점에서5ポイント以上、上回っている。

(2) 具体的な課題とその要因

どの観点も目標値を下回る観点はなく、概ね基本的な学習内容は身に付いているといえる。設問によっては、正答率の低い「思考・判断・表現」の力を伸ばしていく。

実際の設問では、第3学年は「求め方に当てはまる式を書き、考え方を言葉で説明する」、第5学年は「数量の関係を、割合を使って説明する」や「身近な物のおよその面積を選ぶ」、第6学年は「表から面積と人数の割合を求め、混み具合を考察する」などの正答率が低かった。

立式と考え方がつながっていないことや量感を身に付けることが不十分であること、割合によって求められることが実際の生活場面とつながっていないことなどが要因だと考える。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

「思考・判断・表現」の力を伸ばしていくために、かけ算やわり算を図に表しながら考えて、それをもとに互いに説明し合う活動、長さや重さの予測と計測などの体験的に数量の豊かな感覚を育てる活動、割合ではその大きさを捉え、適切に判断したり能率的な処理の仕方を考え出したりする活動を意図的に取り入れる。次年度も引き続き全学年で「思考・判断・表現」の観点が目標値より5ポイント以上、上回ることを目指していく。

令和3年度 理科 (実施学年4～6年)

(1) 理科の定着状況についての概要

		自然事象への 関心・意欲・態度		科学的な 思考・表現		観察・実験の技 能		自然事象につい ての知識・理解		知識・技 能	思考・判 断・表現	主体的に学 習に取り組 む態度
		H31	R2	H31	R2	H31	R2	H31	R2	R3	R3	R3
4 年	目標値	62.1	46.7	58.2	59.7	66.3	71.7	63.5	69.3	71.9	61.8	52.0
	全国正答率	64.4	43.4	59.4	57.4	67.3	65.9	65.1	65.3	75.5	63.9	52.6
	校内正答率	61.0	36.5	61.0	55.0	64.3	61.1	61.3	63.4	72.6	66.7	54.1
5 年	目標値	63.3	43.3	62.5	60.7	75.0	60.8	68.1	68.4	71.6	56.3	57.0
	全国正答率	65.6	42.8	63.9	60.3	78.3	62.2	70.0	68.1	76.2	59.6	61.6
	校内正答率	59.7	50.6	63.4	61.8	65.9	68.9	68.2	69.0	64.1	53.6	54.4
6 年	目標値	61.3	53.3	57.3	64.9	43.5	62.9	63.0	68.2	68.4	59.6	49.0
	全国正答率	62.1	47.9	57.4	66.0	37.3	65.7	62.8	69.7	69.8	62.0	50.0
	校内正答率	66.3	49.4	60.5	66.3	39.4	68.1	63.3	71.2	69.3	62.8	49.6

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

昨年度までの学力定着度調査では、「観察・実験の技能」が課題であった。今年度の調査では、第4・6学年ですべての観点において、目標値と同程度かやや目標値を上回る結果となった。しかし、第5学年はすべての観点において目標値を下回る結果となった。全国正答率と比べると、「知識・技能」では、第4・5・6学年、「思考・判断・表現」では、第5学年、「主体的に学習に取り組む態度」では、第5・6学年が下回った。

(2) 具体的な課題とその要因

具体的に設問内容を分析すると、どの学年もほとんどの単元(物質・エネルギー・生命・地球)において自然の事物・現象についての理解不足が見られる。それと伴って、観察・実験による問題解決にも困難が見られる。学習の中で、児童自ら「何だろう?」「なぜだろう?」などの知らないことに気付く事が問題解決の手掛かりとなる。児童に興味や疑問をもたせる教材の工夫や問題解決の見通しをもって学習することが不十分であることが考えられる。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

単元の始めに興味をもたせる課題提示を行う。また、身近な事と照らし合わせて、疑問をもたせる。そして、問題解決学習「①問題 ②予想(理由) ③計画 ④実験・観察 ⑤結果 ⑥考察」を計画的に行い、予想と考察では自分の考えを明らかにする。

この過程の中で、考えと結果を結び付け、結論付けたり、関係づけたりしてより妥当性の高いものを見つけしていくことが必要である。観察・実験では、器具や機器などを目的に応じて扱えるように指導する。また、観察・実験の過程や結果を適切に記録して、自然事物・現象についての理解を深め、理科的な見方や考え方を育てていく。

次年度、「知識・技能」の観点が、全学年、目標値より上回ることを目指す。

令和3年度 英語 (実施学年6年)

(1) 英語科の定着状況についての概要

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		R3	R3	R3
6年	目標値	81.5	81.8	83.3
	全国正答率	85.1	84.8	85.9
	校内正答率	88.6	85.6	87.3

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

※校内正答率が全国正答率より5ポイント以上、上回る観点には網掛け

学力定着度調査では、今年度が初めての英語科の調査である。第6学年のみの実施となる。今年度、どの観点も目標値に達成し、全国正答率には同程度かやや上回っている。観点によっては、目標値よりも5ポイント以上、上回るものもある。

(2) 具体的な課題とその要因

どの観点も目標値を下回る観点はなく、概ね基本的な学習内容は身に付いているといえる。目標値を5ポイント以上上回った「知識・技能」の中でも、設問によっては、課題となるものがあつた。また、目標値は上回っているものの正答率の低い傾向のある「思考・判断・表現」の力を伸ばしていくことも課題となる。

実際の設問では、「日常会話の理解(聞く)」の「第三者を紹介する場面で、具体的な情報をききとり、その内容を理解すること(知識・技能)」や、「道案内についての具体的な情報を聞き取り、その内容を理解すること(知識・技能)」、「会話全体の理解(聞く)」の「日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測すること(思考・判断・表現)」や「短い物語を聞き、話の概要を捉えること(思考・判断・表現)」の正答率が目標値よりも低かつた。

「知識・技能」、「思考・判断・表現」のどちらの観点でも、「聞くこと」の領域に課題が集中していることが分かつた。身近で簡単な事柄について、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現の中から適切なものを選び、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力に課題があると考える。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

低学年や中学年の外国語活動において「聞くこと」の活動に取り組んでいる。他の領域の基盤となる「聞くこと」に対する自信を高めるため、聞かせる事柄を自分のこと、友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄にしたり、聞かせる英語の速さに留意したりすることを大切に指導し、さらに情報を聞いてみたいという意欲につなげていく。

高学年ではコミュニケーションを行う際、英語で伝え合うだけでなく、自分の考えとコミュニケーションする相手の考えを比較したり、新たな考えを知識として取り入れたりしながら、自分の考えを再構築する活動を行っていく。また、こうした言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について、自ら学習のまとめを行ったり、振り返りを行ったりすることで「思考力・判断力・表現力等」を高める。

英語は語と語を連結させることにより滑らかにリズムカルに話すことができる一方、それが聞き取りを難しくしている面もある。ALTやJTEとの活動を通して、この音の変化にも慣れていけるよう指導を工夫する。

次年度は、どの観点でも目標値を5ポイント以上上回ることを目指していく。